

データセンターあしがき

今年度も、全国の移植登録施設のみなさま、関係者のみなさまのご尽力により、全国調査報告書が発行できることとなりました。

2014年1月に「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が施行され、これに基づき日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）が「造血幹細胞移植の患者やドナー情報の収集・分析」を国の支援のもと担うこととなり、8年が経過しました。2020年1月にリリースされました第二世代移植登録一元管理プログラム（TRUMP2）の version 2.4 では、WHO 疾患分類改訂や新規薬剤追加等を踏まえ、約 600 の新規調査項目が追加され、レジストリ調査項目としてさらに充実したものとなりました。新規の調査項目も増えご苦労をおかけしたことと思いますが、2021 年度全国調査でも 350 を超える全国の移植診療科からのご登録をいただきました。

データ利用申請件数は増加、また多様化してきています。データ収集と管理およびデータの利用管理を担う JDCHCT 造血細胞移植登録一元管理委員会、日本造血・免疫細胞療法学会（JSTCT）ワーキンググループ（WG）の運営と WG が実施する研究を管理する JSTCT 造血細胞移植登録一元管理委員会の委員長、委員の方々にはこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。JSTCT ワーキンググループ（WG）および、そのほかデータ利用申請による、TRUMP データを用いた研究活動性の高さは、巻末の WG 活動報告書や業績一覧でよくわかります。日本発の、TRUMP データを用いた解析結果が多く出るようになり、これらが次の移植医療に反映されていく現状を踏まえましても、その質の担保にさらに力を入れていく責務を感じております。

細胞治療に関しては、急性 GVHD 治療のための間葉系幹細胞製品であるテムセル®HS 注に関して厚生労働省および医薬品医療機器総合機構の再生医療等製品レジストリの役割を本全国調査にて担っており、平成 29 年度以降ホームページでのみ掲載する調査報告としてその実施状況を公開しています。遺伝子改変 T 細胞（CAR-T）治療などの新規細胞治療情報を収集するためのシステムとして、日欧米における相互互換性を有するレジストリ入力システムとして国際造血細胞移植研究機構（CIBMTR）の Web 登録システム FormsNet の日本語バージョンを開発し、2020 年 3 月にリリースし、2022 年 2 月現在 71 施設が施設登録されています。全国の登録施設のみなさま、関係者のみなさまが必要とされるものに、一つ一つ丁寧に取り組み、造血細胞移植と細胞治療の発展に、データセンターとして貢献ができるよう努力してまいります。引き続きご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

日本造血細胞移植データセンター	センター長	熱田由子
	システムグループ	坪井秀樹、浅野充洋
	統計解析グループ	倉田美穂、柳澤昌実
	データマネジメントグループ	伊藤千佳、坂井志帆、坂井俊亮 桜井友実、田畑藍、松原奈津希 小林静香、水谷典子
	法人管理部	松原有希、山田達也、若杉雅美 中北みどり、加藤里美